

せつしん え
正法眼蔵・坐禅摂心会御案内



Zen Sessihin

mit dem Zenmeister

Dr. Kosen Nishiyama Roshi

西山廣宣 老師

平成20年4月25日(金)～27日(日)

於：茂庭荘別館 (☎ 022-245-5141)



主催：虚空蔵山 大満寺

〒982-0841 宮城県仙台市太白区向山4-4-1

TEL 022-266-6096 FAX 022-262-2308

HP www.dalmanji.or.jp

i-mode版 www.dalmanji.or.jp/i

正法眼蔵・坐禅^{せつしん}撰心^え会参加のお招き

- 日 時：平成20年4月25日(金)～4月27日(日) 二泊三日
- 場 所：茂庭荘別館
仙台市太白区茂庭字人來田西143-3
TEL 022-245-5141
- 宿泊場所：茂庭荘新館
- 参加費：2万円（食事7食、宿泊費（二晩）、研修費）
- 定 員：30名（研修資料代、入場料、消費税一切を含む）
- 目 的：二泊三日は精進料理の食事を通し、坐禅と読経と正法眼蔵の提唱、特に道元禪師様の正法眼蔵の拝読と研究をその中心に置き、研鑽を積み上げる。
尚、休憩時間には茂庭荘の温泉に入湯する時間も予定しております。
- 日 程（差定）

4月25日(金)

- 10時 現地集合、撰心の説明会
- 12時 中食（昼食）精進揚げざるそば、南瓜、椎茸、たらの芽、ごごみ
- 1時 休憩、入湯（2時まで）
- 2時 坐禅（止静）、（2時30分）^{ちょうかい}通解・^{きんぎん}経行
- 2時40分 坐禅（止静）3時15分解定
- 4時 正法眼蔵提唱（5時まで）
- 5時15分 晩課（6時まで）
- 6時 菜石（夕飯）白御飯、お味噌汁、精進煮物、高野豆腐、人参、絹さや、わらび山かけ、香の物
- 7時30分 正法眼蔵提唱（8時30分まで）
- 9時 夜坐（9時30分まで）
- 9時30分 休憩、入湯
- 10時 開枕、戒尺

4月26日(土)

- 6時 暁天坐禪（6時40分通解）、朝課
7時 小食（朝食）玄米がゆ、塩桜のお吸い物、梅干し、煮豆、らっきょ、香の物
8時 正法眼藏提唱（9時まで）
9時30分 坐禪（止静）（10時15分通解、経行）
10時30分 正法眼藏提唱（11時30分まで）
12時 中食（昼食）温うどん、油揚、三つ葉、椎茸、香の物（胡瓜、かぶら）
1時 休憩、入湯（2時まで）
2時 坐禪（止静） 通解、経行
3時 正法眼藏提唱（4時まで）
4時 坐禪（止静） 通解、経行（4時40分まで）
5時 晩課（5時30分まで）
6時 菜石 白御飯、お味噌汁、春大根と竹の子、厚揚げの煮物、じゃがいもの味噌炒め、木の芽
7時 正法眼藏提唱（8時まで）
8時 坐禪（止静） 8時45分通解、経行（視聴覚研修）
9時 休憩、入湯
10時 開枕、戒尺

4月27日(日)

- 6時 暁天坐禪（6時40分通解、経行）
7時 朝課
7時30分 小食（朝食）玄米がゆ、塩昆布のお吸い物、煮豆、梅干し、らっきょ、香の物
8時30分 正法眼藏提唱（9時30分まで）
9時45分 坐禪（止静）（10時30分通解、解定）
11時 正法眼藏提唱（12時まで）
12時 中食（昼食）白石うーめん、野菜おくずかけ、春菊と焼椎茸の白和え
1時 行茶（反省会）、入湯、雲散

道元さま (1200~1253)

(圓洞宗の開祖、高祖承徳大師、永平道元大和尚とよばれています。永平寺や、興聖寺を建立されました。幼少の時両親を亡くされたことが出家の道を決す契機となり、天台教学を学ばれますが、「本来本法性、天然自性身」について疑問を持たれ明全和尚に師事し、ともに中国に渡り如浄禪師に出会い、修行を重ね「身心脱落」と表現される悟りを開かれました。お釈迦さまから歴代の祖師方へ伝えられてきた正伝の仏法の教えにしたがって、ただひたすらに坐禅する（只管打坐）とき、仏としての自己があらわれる（即心是仏）と説かれ、圓洞宗の宗祖となっています。修行は坐禅に限らず日常生活すべてであるから、仏としての可能性を持つ人間は、遍心をもって菩提心をおこしつづけなさい（仏の道を感じる心で、いつでも仏の道を求める心をおこしつづけなさい）。と教えられています。厳しい修行の後に得た仏教のさとりを多く書き残され、圓洞宗の正伝の仏法を伝えられました。本格的な修行道場を建て仏道修行のあり方を示し、純粹な坐禅の仏法を説かれ、清規（軌範）を定め実践し弟子を育てられました。

・ご生涯

誕生 一二〇〇年、一月二十六日京都にてお生まれになりました。父は久我通頼、母は藤原基房の娘といわれています。三才の時父と、八才の時母と死別されました。幼名 文殊丸

出家 (十三才) 一叔父の良観法師を比叡山に訪ね出家されました。翌年に天台座主の公圓僧正の元で剃髪して得度を受けられ、延暦寺の戒壇院で受戒し、仏法号道元と名のられました。

建仁寺 (十八才) …「本来本法性、天然自性身」という教えに疑問をもたれ、比叡山を下山して三井寺の公圓僧正を訪ねられますが、建仁寺の栄西禪師の門を叩くようにすすめられました。この年栄西禪師は亡くなり、高弟の明全和尚に師事して六年間ここで実践修行をされました。

入宋 (二十四才) …明全和尚と「宋」に渡り天童山景德寺の無隠了義禪師の許で禅修行をされましたが得心できず、歸山を懇請されました。二十六才のとき、天童山の住職、如浄禪師と出会われました。圓洞の流れを伝える如浄禪師は長い間探し求めていた真の正師でした。猛烈な修行を重ねて、大悟され印可証明を受けられました。この年、明全和尚は病没されました。

帰朝 (二十八才) …明全和尚の遺骨を担いで日本へ帰られ京都の建仁寺に入られました。帰朝の地は扇本市の南、川尻に着かれたと伝えられています。
(三十一才) …建仁寺を離れて、京都の南の安養院に移り住み「正法眼藏」を書き始められました。

興聖寺 (三十四才) …第一の道場として興聖寺を建立し、本格的な僧堂を造り「管動坐禅儀」「并道話」「学道用心集」「興成教頌」を執筆し、教化に取り組みます。高弟の懷契禪師が、道元禪師のこの頃の教えを記録し、まとめたものが、「正法眼藏隨筆記」です。(現京都宇治市宇治山田二十七ノ一)

永平寺 (四十四才) …旧仏教勢力の弾圧を察知した渡多野種重の勧めで、越前志比呂に大仏寺を建てられました。四十六才のとき大仏寺を永平寺と改めて、清規を制定し正伝の仏法の実践と弟子の育成に務められました。

鎌倉 (四十八才) …北条時頼の要請を受けて鎌倉で説法教化を行われましたが、権政をはなれ置

年越前に帰られました。その後寺領の寄進の申し出がありましたが無くなりました。

示寂

（五十四才）一病状が悪化し、養生のため京都に入られ俗弟子覚急のもとで、九月二十九日（陰暦八月二十八日）に、なくなられました。
（現京都市東山区高台寺近くに禅師の茶室があります。）

登山さま（1264～1325）

※一二六八年にお生まれになり、五十八才のご生涯であったともいわれております。

（太祖常清大師、誓山範蓮大和尚とよばれています。

永光寺、總持寺、光孝寺、宝応寺、浄住寺、城清寺を建立されました

観音信仰の厚かった母と、道元禅師の弟子であった祖母の感化もあって永平寺第三世義介禅師の弟子とされます。厳しい修行をされ、道元禅師の仏法を正しく継承し、より多くの人々に広めるべき体制をつくられました。教えの普及に努められ、曹洞宗の礎を築かれました。

道元禅師の著書をもとに教えを大成されました。また、戒律と伝灯を伝え、仏弟子の証明となる「直伝」を授けられました。多くの優れた弟子を育成し、その門下がさらに多くの弟子を育て、全国に曹洞宗の教えを広められました。

・ご生涯

誕生

一二六四年、現在の福井県武生市多福でお生まれになりました。父は了圓上座、母は熱心な観音信仰者、信賴大師、祖母の明智は道元禅師の俗弟子でした。幼名「行生磨」

出家

（八才）一祖母の明智に連れられ永平寺第三世義介禅師のもとで出家され沙弥となりました。義介禅師の退任後、第二世懷然禅師につき、十三才の時に、受戒得度し誓山範蓮と名のられました。

宝慶寺

（十九才）一道元禅師の高弟で、中国から帰化していた宝慶寺の寂円禅師の元で学び、諸国行脚して臨濟禅や天台密教や真言密教に接触されました。

大乗寺

（二十二才）一越前にお帰りになった後、義介禅師に従って永平寺を下山し、加賀の大乗寺にお入りになり修行に努められました。
二十七才のとき「平常心是道」の法語を聴いて悟りを開かれ、義介禅師の後継者となりました。

大乗脱化

（二十八才）一阿波に城清寺を開き、多くの弟子に戒を授けられます。
（三十五才）一大乗寺第二世となり、「伝光録」を撰唱し、「坐禅用心記」を著わされました。

永光寺

（四十六才）一塚野匠庵夫妻から懇望され、能登に永光寺を開かれました。「誓山清規」を著わされ、修行道場の軌範を作られました。

五老峰

（五十才）一永光寺山内に五老峰を建立されました。

總持寺

（五十四才）一寄進をうけられた能登の真言宗諸賢寺（行基菩薩建立）を總持寺と称して、漸次改められました。

示寂

（六十二才）一總持寺を誓山禅師に一任して、永光寺に帰りたくなくなりました。九月二十九日（陰暦八月十五日）